

丹波道之、大江乃山之、真玉葛、絶牟乃心、我不思

〔金葉和歌集九〕和泉式部、保昌にぐして、丹後國に侍りけるころ、都に歌合のありけるに、小式部内侍歌よみにとられて侍りけるを、中納言定頼つばねのかたにまうできて、歌はいかせさせ給、丹後へ人はつかはしてけんや、つかひまうでこすや、いかゞ心もとなくおぼすらんなど、たはぶれて立けるを、ひきとゞめてよめる、

小式部内侍

大江山いく野の道の遠ければまだふみもみず天の橋立

〔伊呂波字類抄太
諸寺〕大山在伯耆國此高岳山陰道神秀窟、伯耆國仙靈秘之前幾萬歲哉、窟現之後、數千年矣、此山行基菩薩作羅蘆以處始造、宮立殿、以地藏音爲本體、釋迦多身實化所、樓三千餘僧徒也。

○大山ノ事ハ、神祇部大山神社篇ニ在リ、參看スベシ、

〔伊呂波字類抄加
諸寺〕高野山弘仁七年建之、弘法大師入定地也、

〔書言字考節用集一
乾坤〕高野山是也、件處委注、仍略之、

〔和漢三才圖會七十六〕高野山金剛峯寺在伊都郡至京師二十九里、至大坂十六里、至羽山

嵯峨天皇弘仁七年建立

〔類聚名物考地理十九〕高野たかの 紀伊國伊都郡

高野山ともいへり、今俗にはかうやと、音にのみいへり、此地ははるかに山を上りて、その山の上に平なる野の在れば、かくはいへるなり、高き所の野といへる意なり、さればそれを高野山といはん事も、その故聞えたり、亥ひたるにはあらず、ことに今の世には、寺院には山號とて、必ずその寺の別號の如くに、山號とて、なになに山といへるは、平地里市の中にて云ひ習ひとなるをや、

〔笈埃隨筆七〕高野山

紀州高野山の靈場なる事は、世上に皆亥れる處也、大師の御廟昔は寶塔なりしに、今は寶形の堂